

2. 事業

1) 協議会

2020年9月14日に第3回愛知県てんかん治療医療連携協議会を開催した。COVID-19の流行を鑑み、web会議形式の開催とした。2019年度の活動報告、2020年度の活動予定などが確認された。協議会として県内医療機関のてんかん診療の実施状況調査を行ったことが報告された。

各委員より学校教員、保健センターなど医療機関以外でてんかん患者に関わる機関に対する知識啓発の重要性の指摘があり、協議会として対応していく方針とした。

協議会の委員は以下の通りである。

委員長 兼本浩祐 愛知医科大学精神科

1. 拠点機関

若林俊彦 名古屋大学脳神経外科
夏目淳 名古屋大学小児科
前澤聡 名古屋大学脳神経外科
勝野雅央 名古屋大学脳神経内科
尾崎紀夫 名古屋大学精神科・親と子どもの心療科
山本啓之 名古屋大学小児科(コーディネーター)
後藤紋香 名古屋大学精神保健福祉士(コーディネーター)

2. てんかん治療を専門に行っている医師

兼本浩祐 愛知医科大学精神科
福智寿彦 ずずかけクリニック
東英樹 名古屋市立大学精神科
齋藤伸治 名古屋市立大学小児科
奥村彰久 愛知医科大学小児科
石原尚子 藤田医科大学小児科
梶田泰一 名古屋医療センター脳神経外科
岡田久 名古屋医療センター脳神経内科
森川建基 森川クリニック
寶珠山稔 名古屋大学医学部保健学科
廣瀬雄一 藤田医科大学医学部脳神経外科学
三浦清邦 愛知県医療療育総合センター中央病院小児神経科
麻生幸三郎 信愛医療療育センター
川上治 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院脳神経内科
藤谷繁 名古屋第一赤十字病院脳神経外科

3. 保健医療行政を担当する県職員

こころの健康推進室長

4. 精神保健福祉センター、保健所(1か所程度)の代表者

精神保健福祉センター所長

一宮市保健所長

5. てんかん患者及びその家族の代表者

前田孝志 日本てんかん協会愛知県支部

患者ご本人

2) 医療者の研修事業

2021年2月13日に「医療者のためのてんかん講習会」を藤田医科大学を配信会場としてweb開催で行った。内容は以下のとおりである。

医療者のためのてんかん講習会

日時:2021年2月13日(土) 13:30~17:00

開催形式:Web開催(ライブ配信のみ) 配信会場:藤田医科大学

プログラム

13:30~13:35 開会の挨拶 廣瀬雄一(藤田医科大学脳神経外科学教授)

第1部 13:35~14:20

座長:岩田仲生(藤田医科大学精神科学教授)

「てんかん診療は人生を変えることがある

-4大ファミリー・プラス・ワンから始めるてんかん診療」

兼本浩祐(愛知医科大学精神科学教授)

第2部 14:20~15:05

座長:吉川哲史(藤田医科大学小児科学教授)

「てんかん外科はどこに向かうのか

- cutting edge and prospective view in epilepsy surgery」

山本貴道(聖隷浜松病院副院長)

第3部 15:10~16:00

座長:石原尚子(藤田医科大学小児科学講師)

「てんかんの脳波検査」

前田圭介(藤田医科大学病院臨床検査部)

「ケトン食療法の実践と課題」

古田智子(glut1異常症患者会会長)

第4部 16:00~16:45

座長:渡辺宏久(藤田医科大学脳神経内科学教授)

「てんかんの社会福祉」

愛知県てんかん治療医療連携協議会
医療者のためのてんかん講習会
てんかんは100人に1人の「ありふれた」病気で、新生児から高齢者までいつでも発症します。この講習会は医療従事者から福祉職までてんかんに関わるあらゆる職種の方を対象としています。てんかんについて、ひとり学べる絶好の機会です。多くの参加をお待ちしております。

日時 2021年2月13日(土) 13:30-17:00
開催形式 Web開催(ライブ配信のみ) 配信会場 藤田医科大学医学部2号館(予定)
参加費無料 事前申し込み制

プログラム

- 13:30-13:35 開会の挨拶 廣瀬雄一(藤田医科大学 脳神経外科学教授)
- 13:35-14:20 第1部 座長 岩田 仲生(藤田医科大学 精神科学教授)
「てんかん診療は人生を変えることがある
-4大ファミリー・プラス・ワンから始めるてんかん診療」
兼本 浩祐(愛知医科大学 精神科学教授)
- 14:20-15:05 第2部 座長 吉川 哲史(藤田医科大学 小児科学教授)
「てんかん外科はどこに向かうのか
- cutting edge and prospective view in epilepsy surgery」
山本 貴道(聖隷浜松病院 副院長)
- 15:05-15:10 休憩
- 15:10-16:00 第3部 座長 石原 尚子(藤田医科大学 小児科学講師)
「てんかんの脳波検査」 前田 圭介(藤田医科大学病院 臨床検査部)
「ケトン食療法の実践と課題」 古田 智子(glut1異常症患者会 会長)
- 16:00-16:45 第4部 座長 渡辺 宏久(藤田医科大学 脳神経内科学教授)
「てんかんの社会福祉」 福智 寿彦(すずかけクリニック 院長)
- 16:45- 閉会の挨拶 兼本 浩祐(愛知医科大学 精神科学教授)

お申し込み方法
WEBでお申し込み
https://forms.gle/2JhmmmpwUuc7YsRk7
Eメールでお申し込み
mailto:epi-jimu@med.nagoya-u.ac.jp
お申し込みの注意事項
この講習会は、無償で、無償で提供されるものではありません。講師・司会者、三河地区、愛知地区、電話費、e-mailアドレス、印刷、経費等をお知らせいたします。

Web での参加者は 209 名で、医師、臨床検査技師、看護師、薬剤師など多職種にわたった。

3) 啓発のための市民公開講座

本年度は COVID-19 対策のため一般市民に直接参加を促す市民公開講座の開催は断念した。その代替としてラジオ放送として 1 週間にわたり一般市民向けにラジオ放送を行った。

6. 成果と課題

本事業は都道府県単位で一つの拠点機関を指定することが前提とされている。しかし、実情として複数の医療機関が拠点としててんかん診療を行っている地域では単一の拠点機関を指定することが困難であることが考えられる。愛知県でも複数の医療機関がてんかん診療を積極的に行っており、それぞれの機関により得意としている分野は異なっている。そのため複数の医療機関がコンソーシアムとして拠点を形成することで有機的に連携をし相補的な拠点形成をすることが必要であると考えられた。そのため、協議会には幅広い医療機関から参加し、多施設が横に連携して県内の各地域の患者さんがバランス良くてんかん診療を受けられる体制を目指している。愛知県における本事業は、全国の複数の医療機関が拠点になっている地域のてんかん診療体制の整備のモデルになると考えられる。

てんかんは有病率が高く、生涯にわたって罹患しうる疾患である。また症状も千差万別であり、当然のことであるが拠点機関にすべてのてんかん患者を集約できるものではない。複数の医療機関が横に連携した診療体制を構築することを、県内の患者、家族、医療機関のスタッフに広報し、病状に応じた適切な診療を受けられるようにすることが必要である。またてんかんの初期診療から二次・三次診療を担う県内の医療機関について情報共有し、診療レベルの向上、診療ネットワークの形成、診療マップの提供をしていけるように活動を続けることが必要である。そのため市民公開講座、医療者のための講習会を開催し知識、認識の共有に努めてきた。一つの成果として県内のてんかん専門医、精神科専門医、脳神経内科専門医、脳神経外科専門医、小児神経専門医の所属する施設などにアンケート調査を実施し、県内のどの施設がどの程度の診療レベルでてんかん診療を行っているかを把握した。全国拠点の事業と共同しわかりやすい形でアクセスできるように調整していく予定である。

今年度は Covid-19 流行下における活動となり、大幅な制限を受けた。特に顔の見える連携を目指している愛知県における診療連携事業は制限を受けざるを得なかったがその中でも最大限の活動を模索し、一定の活動を維持できたと考えている。

今後の課題としては、医療機関の広域的な偏在の問題がある。本事業は都道府県単位となっているが、実際の医療圏は都道府県を超えて連携されている。例えば愛知県では県庁所在地である名古屋市に人口の重心があるが、名古屋市から鉄道で 30 分の圏内には人口

30 万人超の他県の都市が複数存在する。これらの県ではてんかん拠点が指定されておらず、愛知県および静岡県へ紹介されている現状がある。今後は県の単位を超えた連携も視野に入れていく必要があるであろう。これらは全国拠点との連携を通じて解決を模索していきたい。